

語り合う 15年後の故郷

相模原・上溝南中3年生

自身の将来重ね意見発表

中学生が15年後の自分と相模原の将来像を考える授業が21日、相模原市立上溝南中学校(同市中央区上溝)で行われた。卒業を控えた3年生たちが、将来のまちな姿を、未来の自分と重ね合わせながら語り合った。(川口 肇)



相模原市と自分の15年後を語り合う生徒たちと稲葉校長
(左から2人目) 相模原市中央区の上溝南中学校

授業では、昨年4月に相模原商工会議所・都市産業研究会が発行した中学生を対象にしたまちづくり提言書「さがみはらの15年後の君へ」を活用。同校の稲葉茂校長が、自分の進路を意識する時期の3年生に「もう少し視野を広げて、故郷の未来も考えてほしい」と発案した。

「アメリカで働く」「警察官になりたい」など、自らの夢を紹介した生徒たちを前に、稲葉校長は市の未来像を説明。冊子を活用しながら、市内は高齢化の進展が予想されていることなどに触れ「地元のお祭りや、商店街はこれからどうなるかな」と疑問を投げかけた。生徒たちは「高齢者が増えるので、若い自分たちが支えないといけない」「犯罪が多いが、安全・安心なまちをつくらしてほしい」など意見を発表し、未来の相模原像を思い描いた。

稲葉校長は「15年後の君たちは、社会の中で最も活躍できる時期を迎える。故

郷・相模原のために、自分がどのように関わられるかをこれからも考えてほしい」と呼び掛け、授業を締めくくった。

市内の自然を生かし、「水」を中心にしたまちづくりを要望した上出暹香さん(15)は「自分やまちな15年後を想像したことはなかった。相模原がもっといいまちになるように、ごみ問題や自然環境の保全に自分も関わっていききたい」と話していた。今後、卒業式までに3年生全クラスで授業を行っていくという。

市内の自然を生かし、「水」を中心にしたまちづくりを要望した上出暹香さん(15)は「自分やまちな15年後を想像したことはなかった。相模原がもっといいまちになるように、ごみ問題や自然環境の保全に自分も